



質問 一般 質 問 ハ イ ラ イ ト



六月定例会の一般質問は十五日・十六日両日に
けて行なわれ、中澤・石橋・小川・寺本・今島・
浜野の六議員が市政各般に渡り市当局の姿勢を問
いたました。

〔質問と答弁の主な要旨は次のとおり〕

農 政

質 問

米の問題については内外と
もに厳しい状況にある。

今日の農業は食糧管理法と
いう姿の中で守られてきてい
る訳だが、本来この法律は食
糧の不足を補うために法制化
された制度である。それが今
日の世界経済の中に解け込ん
でしまうと、地域性というも
のを充分に発揮しなければ米
というものは生き残ってい
ないと考ええる。

当地域は水田単作地帯とい
う特殊な条件の中の農業で
あるので、今後本市の農業政
策をどう展開し、農地を生か
していくおつもりか。

答 弁

農業の現況については農作
物輸入自由化の要求に代表さ
れるように農業自体のもつ多
くの難問が山積し、厳しい情
勢にある。

本市は小浜市農業総合指導
推進会議を母体として営農活

動を推進しており、稲を基幹
作物として集落単位の農地を
対象に地域営農計画を実践の
方向へ誘導し、さらには中核
農家を中心とした集落内生産
組織の分業化体形による品種
別団地化をさらに推進したい。

また土地利用の汎用化対策
を進めるとともに、現在過剰
投資となつている農業機械等
についても共同利用である
か、あるいは請負耕作を促進
するために、大規模で高額な
投資が必要なものは農協、生
産組織への導入により整備を
図り、消費者ニーズに
応えるということの基本に立
つて、今後の米価、食管法の
方向等に対応した低コスト高
品質生産、生産基盤の整備、
優良農地の確保に努めたい。

また、現在農用地の利用計
画については農業振興地域整
備計画に基づき策定をしてい
るが、さらに一歩進んで小浜
市全体の中の農地利用とい
うものを総合開発計画の中
で見直しをしてまいりたい。

もとより基幹作物は水稲で
あるが、合わせて特産品化へ
も意を注ぎたい。

新規事業

質 問

市長就任よりはや一年が経
とうとしているが、就任時の
新聞等によつて、物産会館、
青年婦人会館、水族館等の建
設について示されており、当
然市民も意識をしている。継
続事業は別として、選挙公約
の中のハードな部分の実行に
ついてお伺いをしたい。

答 弁

三月定例会において平成元
年度予算を提案させていた
た際に市政の基本施策につ
いてご説明させていただいた
が、本年度よりいよいよ公約
の具体的実行に向けて意欲的
に取り組んでまいりたいと考
えている。しかしながら、早
々とあちらの方から婦人青年
会館の土音が聞こえ、こちら
の方からは物産会館の土音が
聞こえてくるようなことであ
れば誠に喜ばしい限りである
が、やはり行政もそれなりの
手順を踏んでいかなければな
らず、どのような制度事業が
あるか調査をし、また本市に
おける予算の範囲も考慮し、
いわゆる下ごしらえというも
のを作ってから検討委員会に
ご相談申し上げ、国県にもお

願いをし、そして実現に向け
て進めるといのが順序であ
ろうと考える。

物産会館については、近く
地場産業活性化委員会を発足
させ、その場で業界の方々の
意向を汲み上げ、準備を進め
てまいりたい。事務局レベル
の考え方として、平成三年を
目途に何とかこの地場産業会
館を建設させていただきたい
と考えている。

婦人青年会館については、
本年度調査費を計上し、文部
省、労働省関係の導入制度の
調査等を行なっていく。今後
は、用地、規模の問題、財政
的な裏付けも必要であり、こ
れらを庁内で総合調整し、そ
れを検討委員会に図りながら
進めてまいりたい。

福 祉

質 問

障害者ふれあいセンター建
設については具体性にとんだ
進展を見ていない現状だが、
市は母と子の家の残余部分を
改装し、センターに供したい
意向もあるやに伺っているが、

また、障害者小規模授産施
設について、口田繩で私財に
て作業場を建設された方の施
設を市としても何らかの支援
を行ない、本市の授産施設の

答 弁

障害者ふれあいセンターに
ついては旧小浜幼稚園跡を補
修改造し、障害者の方々が自
由に利用していただける場所
として提供してはと見え、平
成二年度開設を目標に検討し
ているところである。

センター建設をみずす会の
方々からすればもつと大きい
スケールのものを望んであ
ろうと思うが、とりあえず今
の本市の財政状況その他を勘
案し、このあたりから出発を
させていただけたらと思つて
いるのでご理解賜わりたい。
授産施設については、今日
までその場所の設定等につ
いて検討してきたところであ
るが、過日も現地におじゃま
してつぶさに見せていただい
たところであり、行政のいた
らなさを痛感している。今後、
この施設を小規模授産施設の
起点にさせていただいてはど
うかと考え、極めて前向きに
庁内において検討し、また関
係者にもご相談申し上げなが
ら取り組んでまいりたい。

環 境 整 備

質 問

ゴミ焼却場について、本年

充実を図っていけないのか。

度予算の中に基本計画のための委託費が計上されていたが、改築にあたり庁内組織の対応、また条件整備はどうなっているのか。

答弁

現在の清掃センターについては十年三ヶ月が経過しており、施設の老朽化に加え可燃物ゴミ量の増大にもより今後の適正処理が困難となることと推定される。このため将来計画からの都市像を考え、ゴミ処理の基本的な計画を立てるため庁内においてゴミ処理研究会を設け、今後の対応について協議検討を行うとともに市民の方々へのアンケート調査も行なうて市民のニーズにも対応できるように研究しているところである。

本年度はゴミ処理基本計画及びゴミ処理施設計画を策定することを目的とした調査をコンサルタントに委託するとともに、今後、廃棄物の処理処分を計画的に実行できるような、建て替えも含めた円滑なゴミ処理行政を積極的に推進していきたい。

大 学

質問

大学問題について、前市長

の構想とどの部分が変ったのか。表紙が変つても中味が同じではいけないと総理大臣の椅子を蹴飛ばしたという有名な話があるが、中味も実際に変つたのか。財政的な負担はどうなるのか。

過日、県立大学開学に向け多目的公共用地利用計画推進会議を発足させたと聞くが、どんな内容のものか。また平成四年四月開校を目標とするならば、すでに造成工事、附帯的な事業を進めなければスケジュール的に間に合わないのではないか。

答弁

大規模プロジェクトを推進する際には当然のことであるが行政執行者として市民のニーズや財政状況等総合的な立場から検討を加え計画を推進していかなければならない。とりわけ大学はひとつの経営体であり、経営者は建設費などの初期投資だけでなく後の経営をも考え合わせなければならぬ。このような観点から市独自あるいは嶺南市町村だけの力だけで私立大学の誘致、あるいは公立大学を設置することは困難と考えた次第である。しかし、このたび県では全県的な立場に立つて福井県の高専教育機関の見直しをしようと検討をされ、

その結果、過般県立大学の一部を小浜市に設置したいとの意向を明らかにされた。当然本市にとつて願つてもないことであり、市としても四月に大学誘致対策室を設けるとともに六月には多目的公共用地の県立大学を核とした利用計画を調査研究することを目的として庁内組織に多目的公共用地利用計画推進会議を設置し、今後は県と事務レベルの携行を続けながら秋頃に予定されている県立大学設立準備委員会の検討結果を踏えて対処していくというのが基本的な考え方である。

財源問題については、設置者は県であり、市としてその財源について申し上げる立場でないが、本市としても受け入れ態勢を進めていかなければならない観点から、また小浜市の将来と生涯学習や国際交流など昨今の社会状況における大学の果たす役割などを考え、市民の期待に沿い、県並びに関係各位のこれまでのご尽力に報いることが小浜市の努めと考えており、市政全体との調和を見失うことなく市として精一杯の誠意を尽す所存である。

大学の内容、その規模が具体化され、小浜市が最低限度果さなければならぬもの、あるいはその用途からして主として市の施設と考えられるもの等施設計画、財源計画が明確になつてくるので、県と充分な打ち合わせを行ないながら対応してまいりたい。

また小浜キャンパスとして念頭においている鳥越山多目的用地は当然造成が必要であり、日程的に判断すれば今年度秋以降に造成工事に着手しなければ開校に間に合わないと考えている。

答弁

計画の実現に際しては、基本構想を受けて、基本計画あり、さらに三年ローリング方式の計画を立て、地域の発展と住民の福祉向上を目指して諸施策の推進に努めているところである。計画目標の達成度を数値的に表わすことは施策が多岐に渡つており非常に困難と考えられるが、施設整備などハード面を中心とする三年ローリング方式の実施計画における計画額と実施額を対比すると、六十年九十二・八％、六十一年九十二・七％、六十二年九十八・二％となつており、この三年間を平均すると九十五・一％と計画した諸事業は各年度とも十分に達成されているものと考えている。

そこで新年次の考え方であるが、過日小浜市プロジェクトチーム設置及び運営規定に基づき、助役を委員長として職員七十八名による小浜市総合開発計画検討委員会を設置し、新しい総合開発計画の素案作りを開始したところである。新しい総合開発計画策定にあつては、現在の総合開発計画の達成状況を十分に分析すると共に二十一世紀を間近にひかえ、新しい時代への大きな転換期を向えていることから、時代の変化が市民生活や社会に与える影響、あるいは行政課題を把握し、積極的な対応を図つていかなければならないと考えている。また本市の持つ豊かな自然や歴史文化、あるいは産業など特性を最大限に生かした地域の将来あるべき姿を明らかにしてまいりたいと考えている。さらには幅広い市民参加を推進するため、住民アンケート調査、住民提言募集、あるいは地区別懇談会を実施し、市民の意向を計画に反映させ、市民全体に夢と希望が持て、共感と積極的な参加協力が得られる計画作りに努めてまいりたい。

総合開発

質問

小浜市総合開発計画について、平成三年から十年間、平成十二年までの第三次総合開発計画案作成のため庁内に小浜市総合開発計画検討委員会を設置された。第二次小浜市総合開発計画は昭和五十六年策定され、六十一年一部見直し改定が行なわれ現在に至つているが、総体的に見れば、その都市の盛衰のバロメータである人口は横バイの状態である。年次目標の残期間は二ケ年であるが、当初掲げた目標はどこまで達成されているのか。また八年間の推移の中

る。新しい総合開発計画策定にあつては、現在の総合開発計画の達成状況を十分に分析すると共に二十一世紀を間近にひかえ、新しい時代への大きな転換期を向えていることから、時代の変化が市民生活や社会に与える影響、あるいは行政課題を把握し、積極的な対応を図つていかなければならないと考えている。また本市の持つ豊かな自然や歴史文化、あるいは産業など特性を最大限に生かした地域の将来あるべき姿を明らかにしてまいりたいと考えている。さらには幅広い市民参加を推進するため、住民アンケート調査、住民提言募集、あるいは地区別懇談会を実施し、市民の意向を計画に反映させ、市民全体に夢と希望が持て、共感と積極的な参加協力が得られる計画作りに努めてまいりたい。

またご指摘のとおり今後の長期構想の中では近畿自動車道敦賀線を軸とした見直しが必要であり、策定にあたり本ルートは大きなウエイトを占めると認識しているが、幸い見通しが立つのは割と早い時期に、ある程度明示されると考えるので、策定の中に充分考慮をして位置づけを致したい。

暑中御見舞申し上げます

小浜市議会議員一同

議長 松崎茂明

副議長 山本 肇

議席 番号	氏 名	所 属 委 員 会			
		常任委員会	振興協議会	対策委員会	組合議会
1	寺本久雄	総務	小浜上中	大学誘致	小浜病院 農業共済
2	岡尾正雄	建設	小浜三方	高速交通	若狭消防
3	松崎茂明	教育民生	小浜三方	環境地域	
4	宮川建一	産業経済	小浜三方	高速交通	若狭消防
5	松尾剛	教育民生	小浜三方	大学誘致	小浜病院
6	浜岸利一	総務	小浜上中	大学誘致	小浜病院
7	野村定彦	建設	小浜三方	高速交通	若狭消防
8	富永一夫	総務	小浜大飯	高速交通	小浜病院 農業共済
9	木橋正昭	建設	小浜大飯	環境地域	小浜病院
10	今島寿夫	教育民生	小浜上中	大学誘致	小浜病院
11	山本肇	建設	小浜上中	環境地域	
12	山藤貞雄	産業経済	小浜上中	環境地域	小浜病院
13	辻長三郎	総務	小浜名田庄	高速交通	小浜病院 農業共済
14	森下智	教育民生	小浜大飯	大学誘致	若狭消防
15	岡明男	教育民生	小浜大飯	高速交通	小浜病院
16	深谷嘉勝	産業経済	小浜三方	環境地域	若狭消防
17	小川多嘉士	教育民生	小浜名田庄	高速交通	小浜病院
18	浜野是	産業経済	小浜上中	環境地域	若狭消防
19	松井正一	総務	小浜大飯	大学誘致	若狭消防
20	坂下均	産業経済	小浜名田庄	大学誘致	小浜病院
21	石橋和彦	産業経済	小浜名田庄	環境地域	小浜病院
22	村上一司	総務	小浜名田庄	高速交通	若狭消防
23	岡本治	建設	小浜大飯	環境地域	若狭消防 農業共済
24	中澤吉次	建設	小浜名田庄	大学誘致	小浜病院